

「第23回母乳育児シンポジウム」熊本開催のご案内

実行委員長 近藤 裕一(小) 熊本市民病院首席診療部長
副実行委員長 久保 紀夫(産) 国立病院機構九州医療センター産婦人科部長
大森 清子(助) 国立病院機構嬉野医療センター元看護師長

「母乳育児の輪を広げよう」

東日本大震災からの復興と福島原発事故の終息を皆様とともに強く祈念いたします。

世界母乳週間に合わせ、平成26年8月2日(土)、3日(日)に第23回母乳育児シンポジウムを熊本市中央区桜町 市民会館崇城大学ホール(熊本市民会館)において開催します。今回のシンポジウムのメインテーマは、「母乳育児の輪を広げよう」です。皆さんが、それぞれに取り組んでおられる母乳育児支援を、周りに水紋が広がるように、ゆっくりと確実に広げていこうとの願いを込めています。このシンポジウムに参加されて、アッそうなのか、ハッそんなことだったのか、との気づきが生まれ、それぞれの場に戻られた月曜日から、親子との関わり方が変わるシンポジウムとなるように、実行委員一同で準備を進めています。

この集いは、「母乳育児シンポジウム」という名の通り、シンポジウムを中心に構成されています。一般演題は、優秀演題をワークショップとして口演でも発表いただきますが、基本はポスター発表です。BFHの施設からの報告とともにポスター展示されます。

「赤ちゃんにやさしい病院(Baby Friendly Hospital)」認定式は、認定される施設にとっては、晴れがましい時ではあり、これから目指そうという施設には刺激を与えてくれる瞬間です。

認定式に引き続き特別講演は、ユニセフ東京事務所長平林国彦先生が「赤ちゃんにやさしい病院推進運動と子どもの健康について」と題し、世界を視野に入れた10カ条の読み解きを披露していただきます。

シンポジウムⅠは「変化する社会と母乳育児支援」です。日本のお産、子育てが大きく変容し、周囲との人間関係が希薄な社会となる中での、母乳育児支援の必要性・重要性を考えます。

教育講演「スマホ時代の子育て」は、変化する社会の中でも最も激しい変化を見せる情報化社会の代表として、スマートホンを取り上げます。スマホの功罪について、子育てアプリなどを見ながら、一緒に考えましょう。

シンポジウムⅡは、「母乳育児支援：取り組みのベーシック」です。産科診療所と病院から、産科医、小児科医そして助産師に登場いただき、早期母子接触、母子同室、補足などの支援の基本をそれぞれの施設での実際を提示していただきます。会場の皆さんとの議論に花を咲かせることができると考えます。

東日本大震災を忘れない。福島の子どものその後について御報告をしていただきます。

日本母乳の会の調査「BFHにおける乳頭ケアの実態調査から」と、こども未来財団委託研究「産後2週間健診への提言」の2つの報告が持たれます。

最後に、教育セミナー実践編として、母乳育児で一番悩ましい体重減少や低血糖などをいかに予防し対応するかを、Q/A式で話題提供します。会場のみなさんと一緒に悩み、考え、明日からの糧にしたいと考えます。

8月初めの熊本は、熱帯気候です。クールビズでお出かけください。会場の温度も、半袖シャツを目安に設定します。ネクタイや上着は、お控えください。シンポジウム実行委員一同、皆様のご参加をこころよりお待ちしております。

*本シンポジウムは日本産科婦人科学会、日本産婦人科医会、日本周産期・新生児医学会、日本助産師会の研修会として認定されており、研修シールが発行されます

第23回母乳育児シンポジウム「母乳育児の輪を広げよう」

主催：一般社団法人日本母乳の会

後援：ユニセフ 厚生労働省 日本産科婦人科学会 日本小児科学会 日本小児科医会 日本周産期・新生児医学会
日本助産師会 日本看護協会 熊本県産婦人科医会、熊本県母性衛生学会、熊本小児科学会、熊本小児科医会
熊本県看護協会 熊本県助産師会 熊本県 熊本市

タイムテーブル

8月2日(土)		8月3日(日)	
9:00 ~ 9:30	開会・挨拶	8:45 ~ 9:45	一般演題(2)
9:30 ~ 11:00	一般演題(1) ワークショップ優秀演題	9:45 ~ 11:45	シンポジウムⅡ 母乳育児：ベーシックの取り組み
11:00 ~ 11:30	2013年BFH認定式		
11:30 ~ 12:00	特別講演 赤ちゃんにやさしい病院	11:45 ~ 12:10	報告(2)：2週間健診への提言
12:00 ~ 13:00	昼食	12:10 ~ 13:10	昼食
13:00 ~ 13:30	報告(1)：乳頭ケア実態調査	13:10 ~ 13:40	報告(3) 震災を忘れない
13:30 ~ 15:45	シンポジウムⅠ 変化する社会と母乳育児	13:40 ~ 15:30	教育実践セミナー：母親の母乳分泌と 赤ちゃんの生理を科学する、母乳育児 支援で悩む低血糖の問題について
16:00 ~ 16:45	教育講演 スマホ時代の母乳育児		
16:45 ~ 17:45	ポスター前発表		
17:45 ~ 18:00	日本母乳の会会員報告会	15:30 ~ 15:40	閉会・挨拶
18:30 ~ 20:30	懇親会		

8月2日 土

総合司会：蔵本 昭孝（産・熊本市民病院） 石笠 奈美（助・国立病院機構嬉野医療センター）

9:00 ~ 9:30 挨拶

開会挨拶：近藤 裕一 第23回母乳育児シンポジウム 実行委員長 熊本市民病院

挨拶：山内 芳忠 日本母乳の会 代表理事

メッセージ：厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課(予定)

9:30 ~ 11:00

一般演題(1) ワークショップ（一般演題応募から）

第22回第23回ワークショップ優秀演題 「妊娠中の乳房ケアを考える」「赤ちゃんの泣きを考える」

11:00 ~ 11:30

2014年「赤ちゃんにやさしい病院」認定証授与式

挨拶・認定証授与：平林 国彦（ユニセフ東京事務所 所長）

11:30 ~ 12:00

特別講演「赤ちゃんにやさしい病院推進運動と子どもの健康」

講師：平林 国彦（ユニセフ東京事務所 所長）

司会：山内 芳忠（小・吉備国際看護大学）

<12:00~13:00 昼食・休憩>

13:00 ~ 13:30

報告(1)：妊娠中の乳頭ケアの実際・母親の実態調査（BFH施設の調査から）

妊娠中の乳頭ケアは日本の母乳育児支援として行われてきましたが、近年、欧米文化の影響で、不必要という意見も出されています。BFH施設のアンケート調査から妊娠中の乳頭ケアの実態について、報告します

講師：山縣 威日（産・サンクリニック/日本母乳の会学術委員会）

13:30 ~ 15:45 シンポジウムⅠ

「変化する社会と母乳育児支援」

急激な社会の変化が生みだした人間関係の希薄さは、子育ての場にも影響を及ぼしています。母乳育児支援には産科医療の現場だけではなく、幅広い支援が必要です。様々な面から考えていきます

司会：吉永 宗義（小/日本赤十字九州国際看護大学/宗像市）

薬袋 由美（助・山梨県立中央病院/甲府市）

1) 基調提言

日本のお産が戦後どう変容してきたか、助産・産褥・新生児の保健指導、今一番足りない親子関係の支援。助産師の必要性・重要性、そして周産期医療に関わる人へ、支援のあり方を伝えたい

久保 紀夫（産・国立病院機構九州医療センター/福岡市）

2) 社会的に困難な状況におかれた母子への支援

様々な問題を抱えている目の前の母親に、今できることは何なのか。中絶や乳児院へ児を預けるなど子どもの存在を忘れたいと言う方も多い。地域で「命の授業」を行っているので、伝えたい

太田 純代（助・福岡赤十字病院/福岡市）

3) 母乳育児を通して、母親として育つために一支援に何が必要か

愛されたという実感を持つことができない女性が出産し、母親になれないことが多い。母親になって行く過程を支援する大変さ、そして母親への一歩を踏み出すための支援とは、を考えていきます

熊谷 孝子（栄・くまがい産婦人科/大分）

4) 母乳育児を地域・社会に広げるために一BFH認定病院の影響

退院後、母親が自信を持って母乳育児を続けるために、地域での広がりをどうするか。BFHの活動と地域の母乳の広がりについて、また、十三市民病院の取り組みを伝えます

平林 円（小・大阪市立十三市民病院/大阪市）

<15:45~16:00 休憩>

16:00~16:45 市民公開講座

教育講演「スマホ時代の母乳育児」

ここ数年のスマートホンの普及は社会に急激に大きな変化をもたらしています。若い母親達がスマートホンで育児をしていることを医療関係者はどの程度知っているでしょうか。医療者はその実態を知り、どうすべきか提言します

講師：佐藤 和夫（小・国立病院機構九州医療センター/福岡市）

司会：近藤 裕一（小・熊本市民病院/熊本市）

16:45 ~ 17:45 ポスター前発表 一般演題応募演題からポスター前で質疑応答

17:45 ~ 18:00 日本母乳の会会員報告会

18:30 ~ 20:30 懇親会 ホテル日航熊本

8月3日日

総合司会：森下 哲哉(産) 森下産婦人科医院（福岡市）

木庭 礼子(保) 熊本市役所 子ども支援課 （熊本市）

8:45 ~ 9:45

一般演題(2)

9:45~ 11:45 シンポジウムⅡ

「母乳育児支援：取り組みのベーシック」

妊娠した母親の95%以上が母乳育児を望んでいるのに、1カ月健診では平均50%。99%の母親が病院・診療所で出産する現在、産後入院中に、それぞれの職種ができること、困難な事を話しあいます

司会：沼田 修（小・長岡赤十字病院/長岡市）

桑原 美保（助・熊本市民病院/熊本市）

1) なぜ、産科医が母乳育児支援をするのか—産科診療所の産科医から—

世代間伝承の途絶のために日本の文化から一度消え去った母乳育児を復活することが、日本の社会の諸問題の大きな原因である少子化に対する最も効率の良い対策です。その実現の中心は産科医であり、その役割を考えます
袖原 健男（産・ゆのはら産婦人科医院/熊本市）

2) 0.1.2 日目の母子ケアのポイント—産科診療所の助産師から

出産後、母乳が出始めるまでの3日間、頻回授乳を含めて、母親をどのように支えていくか考えたい
原田 美由紀（助・産科婦人科久米クリニック/いちき串木野市）

3) 補足検討チームを作って— 病院小児科医から

母乳不足に対して自信を持って対応するために院内データを基に検証して、を考えていきます
佐藤 広樹（小・組合立諏訪中央病院/茅野市）

4) 病院内に母乳育児を定着させるために—病院産婦人科医から

多数のスタッフ、移動の多い病院にて、母乳育児支援の考えを浸透させていった経過と苦勞したことをお話しします
房 正規（産/加古川西市民病院・加古川市）

5) 小児科医、多職種との連携—病院助産師から

母親を支えるためには多職種での支援が必要です。新しい取り組みを始める時の経験等をお話しします
山本 優子（助/仙台市立病院・仙台市）

11:45 ~ 12:10

報 告(2) こども未来財団委託研究報告

「産後2週間健診への提言」

講師：西巻 滋（小/横浜市立大学附属病院・横浜市）

<12:10~13:10 昼食・休憩>

13:10 ~ 13:40

報 告(3) 「震災を忘れない：福島のお母さんはかなりポジティブ！」

3.11の東日本大震災後、まだ多くの方々が避難生活を余儀なくされています。原子力発電所の事故による災害に会った福島県での母乳育児支援の現状をお話しします
講師：氏家 二郎（小・国立病院機構福島病院/須賀川市）

13:40 ~ 15:30

教育セミナー実践編 「母乳育児支援の問題を考えよう」

母乳育児支援で、ぶつかる問題を皆さんで考えましょう。QA方式で、気軽に知識と実践を
司会：久野 正（小・聖マリア病院/久留米市）

1) 「母親の母乳分泌と赤ちゃんの生理を科学する」

講師：杉本 充弘（産・日本赤十字社医療センター/東京）

2) 「母乳育児支援で悩む低血糖の問題について」

講師：畑崎 喜芳（小・富山県立中央病院/富山市）

3) 何でも質問してみよう

15:30 ~ 15:40 挨拶

閉会挨拶：久保 紀夫 第23回母乳育児シンポジウム副実行委員長

挨拶：田中 滋己 第24回母乳育児シンポジウム実行委員長